

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271300251		
法人名	有限会社 高梨ウェルビーイング		
事業所名	あったかさん		
所在地	千葉県野田市上花輪588		
自己評価作成日	平成26年3月7日	評価結果市町村受理日	平成26年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成26年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境の中にある事業所で四季の移り変わりを感じゆったりと生活して頂いています。自然を感じながら散歩、日光浴をし、室内ではドリル・歌・体操など各自の能力にあわせて楽しい毎日が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

あったかさんのスローガンとして「ゆったり、いきいきあったかさん、敬う心と敬う言葉」を定め、全職員で共有してサービス実践にあたっている。今年度は地域との交流に力を入れて取り組み、ホーム主催のお祭りを再開させ、多くの地域の方がホームに足を運ばれた。また、歌謡楽団の招聘や管理者の友人による出張寿司、敬老の日には、子ども達との交流を図る等、利用者の生活の活性化につなげる事が出来た。さらに、職員間の情報共有にも力を入れ、連絡ノートの活用や申し送り、ミーティングを通じて、利用者情報を共有し、利用者の変化に迅速に対応できる体制を構築し、緊急時にも迅速に対応できるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき共有し現場で働いている。	事業所として「利用者の安心と尊厳のある生活を自立して営むことができるように支援する」旨の理念を掲示し、スローガンとして「ゆったり、いきいきあったかさん、敬う心と敬う言葉」を定め、全職員で共有してサービス実践にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所と近隣との交流は続いており、暖かく見守って下さっている。	事業所主催のお祭りには多数の近隣の方が参加されたほか、歌謡楽団の招聘や管理者の友人による出張寿司、敬老の日の子ども達との交流、大学実習生の受け入れなど利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように、地域交流の場を多数設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の個人が地域の福祉行政に参加し、その中で認知症の支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での話し合いも協力的で地域の方々の生活の仕方、考え方がとても参考になり、実際に取り組んでいます。	会議には、市の担当者、民生委員、住民代表、家族代表の出席を受け、定期的を実施している。会議では事業報告のほか、消防訓練参加への呼び掛け、お祭りの告知、災害時の必要物品等について検討し、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者、相談員の方々よりご意見や取り組み方を教えて頂きながら行っている。	運営推進会議に市高齢者福祉課担当者の出席があり、また同課とは日頃から疑問点を相談するなど、協力関係を築く事ができている。市の主催する研修には参加をし、接点を深め、協力関係を築くことができるように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないようつとめている。イスからずり落ちてしまうご家族とは契約を結んでいる。	県主催の「身体拘束廃止研修」に職員が参加し、職員会議・カンファレンスにて伝達研修を行い、全職員で共有している。現状、玄関の施錠も含め、身体拘束につながる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないよう、日頃より注意を払っている。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば家族と話し合いをするように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約事前に書面を渡し疑問点などについて説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にはその都度状況を伝えるようにしている。又来訪時には出きる限りの要望を聞き納得のいく対応をしている。	行事、面会、ケアプラン説明時等で家族来訪の際には、必ず直接意見を聴取しており、できる限りの要望を聴取し、その内容を日報に記載し全員で共有し、サービス向上に活かしていけるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々に色々な意見を聞くようにしている。コミュニケーションをとり、働きやすい職場にしている。	全職員が気持ち良く働ける環境作りを目指し、日常的に相談できる体制を構築し、日頃のコミュニケーションを大切に、働きやすい職場環境を構築している。職員からの意見や提案は職員会議で検討し、必要に応じて運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	前向きに働きやすい環境を作るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市で行う研修は毎回4、5人で受け、その後も話し合いをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	色々な問題を相談して勉強させてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して入居して頂けるよう、何でもお茶、食事にお越し頂き不安なく入居して頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定前、決定後ご家族の不安が解消できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネジャーさん等の話しを伺い必要としていることを見極め入居して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と本人の関係は家族のような形で毎日過ごして行きたいと思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支える為に、家族と職員は共働の形をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみのお店がほとんどなくなってしまっているため、なるべく外出を多くし、スーパー等で買い物をするように努めている。	友人などの来訪は少なくなってきているが面会は臨機応変に対応している。本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族のご協力を得て外出し、帰宅やお墓参りなど支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士仲良く生活できるよう気を配っている。(散歩・買い物等を何人かで分けて行動している)		

あつたかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時はもちろんのこと、契約終了後もしばらくの間は連絡をとってフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや訴えは記録や連絡ノートで把握し、家族と連携をとり生活して頂いている。	日頃の会話や表情から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また家族等の協力を仰ぎその把握に努めている。困難な場合は、家族に相談の上、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの話しや今まで過ごされてきた環境から対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日の心理状態、体調の変化に気付き、職員全員で協力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を聴取し、カンファレンスにてスタッフの意見を取り入れ、短期・長期の計画を作成している。	ケアプラン作成時においては、担当者会議を開催し、利用者の現状の課題、今後のケア方針について検討し、検討結果を踏まえケアプランを作成している。ケアプランの見直しは短期目標終了に合わせ見直しを行っている。	今後に向けては、アセスメントの定期的な見直し及びケアプラン作成にあたっては認定有効期間を超えないように作成されることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の健康状態、心理状態を細かく記録し、見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの24時間の生活を支えるための取り組みをしている。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の方々をはじめ、民生員、ボランティアの方々に協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医・ホームドクターとの関係の中で医療を受けられるように支援している。	提携先のかかりつけ医により月2回の往診を実施し、適切な医療を受けられる体制となっている。またこれまでのかかりつけ医の受診については、家族の方の協力体制により図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは医師の指示や服薬などの細かい注意点を看護職に伝え相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、本人、家族に協力し病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方針を説明し、その時がきたら再度ご家族と相談し対応している。	重度化や終末期については、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、理解が得られるように努め、終末期の際は、家族と方針を共有して主治医、看護師と共に方針を決定し、チームで支援に取り組むこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや感染症、急変時の講習は受けているが、実践力は足りないところがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、避難訓練などにも取り組んでいる。	消防署立会いの下、通報、避難訓練を年2回実施している。また月1回自主訓練も実施している。各居室に利用者用のレインコートや軍手をはじめとした衣類一式を準備している。夜間緊急時においても、すぐに職員が駆け付ける事ができる環境としている。	災害が発生した際に、利用者の安否を家族にどのような形で報告していくのか、具体的な方策が確立されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や生活を尊重しプライドを傷つけぬよう接している。	職員は、「家族的」と「介護サービス」の折り合いを肝に銘じ、当事業所のスローガンである「敬う心と敬う言葉」をモットーに一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように適切な対応を日々図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを大切に自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日を大切に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれまでは無理でも身だしなみはきちんとしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー、買い物、調理、後片付け等、利用者と一緒にしている。	食事の準備では、利用者と職員と一緒に買い物をし、食材を選ぶほか、ホーム内でも可能な限り、一緒に準備や片付けを進めている。食事を楽しむ工夫では、時には出前を取ったり、出張寿司や近所の方によるそば打ち、外食に出かける等の取り組みを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	寮・栄養・水分量等、一人ひとりの状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア・義歯のチェックは行っている。		

あつたかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェックし、トイレ誘導を促している。	「排泄チェック表」により個人ごとの排泄状況を記録し、パターンや習慣を把握し、定時の声かけや誘導により、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分で調整し、体操・散歩で工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	血圧や体調により、その日の入浴を決める。(冬場は1日おきにしている)	入浴には職員が介助につき、利用者の体調を考慮し、1日置きに入浴できるようにしている。毎日の入浴も可能であり、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	何人かは昼寝をしている。夜もよく眠れるよう、運動・散歩は毎日行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	細かい変化を医師に相談し、量の調整等をスタッフが伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出きることは必ずやって頂き、体を動かし気分転換を図る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は毎日行い、買い物やドライブにも出かけている。	事業所周辺の散歩のほか、買い物、公園散歩、市役所の展示会、地域のお祭り、運動会、近隣の工場見学、外食などへ定期的に出かけ、戸外活動の充実につなげている。また家族と一緒に、自宅やお墓参りなどの外出も行っている。	



あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している人もおり、外出やスーパーに行く時は必ず持って出かける。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい人はその都度支援している。年賀状等を書く人もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光と風が入ってくる空間にしている。ウッドデッキや外のイスで過ごすこともある。	玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事で撮影した写真や装飾品の掲示、生花を置いて生活感や季節感を醸し出し、居心地よく過ごせるような工夫を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの人がホールで過ごしている。外で日光浴をしている時もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな物、使い慣れた物を持ちこみ居心地よく過ごしている。	居室は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたタンス、家具、好みのものの持ち込みを可能とし、清掃や整理整頓により清潔感を保ち、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」を見つけ出し自立した生活を送って頂くよう見守っている。		